

# 和4年度 桜小学校 学校評価書

## 1 教育目標（目指す児童像含む）

自ら考え、共に学び、心豊かにたくましく生きる児童を育成する。

- (1) たくましい子【たくましい体力と活力】
- (2) 考える子【個性と創造性の伸長】
- (3) 働く子【勤労意欲と実行力】
- (4) 思いやりのある子【豊かな心情と協調心】

## 2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

人間尊重と共生・協同を学校経営の基礎とし、桜小学校の歴史と伝統を継承し、教職員相互の信頼と協調のもとで、児童一人一人のもつよさや可能性を認め伸ばし、未来を拓くたくましい人間の育成に努める。

- (1) 一人一人の児童が輝いて、楽しく学び合う学校
  - ・一人一人が生き生きと活動している学校
  - ・豊かな心を育てる充実した教育が展開されている学校
- (2) 確かな学力を身に付けさせる学校
  - ・よく分かる授業を展開し、確かな学力を育てている学校
  - ・学習環境・言語環境がよく整備されている学校
- (3) 安全で安心な、信頼される学校
  - ・児童、保護者、地域住民から信頼される教育活動を推進している学校
  - ・学校と地域社会との連携を図る教育活動が展開されている学校

## 3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 深い児童理解のもと、豊かな心を醸成する教育活動を積極的に推進するとともに、心豊かでたくましく生きる児童を育成する学校づくりに努める。
- (2) 一人一人の児童の個性・能力を把握し、基礎・基本の確実な定着及び「分かる授業」の展開を図るとともに、確かな学力の向上を目指す。
- (3) 児童の健やかな成長のため、児童が本来もっている力を発揮できるように、一人一人に寄り添いながら温かくきめ細かな指導を行う特別支援教育の推進に努める。
- (4) 教職員としての使命と責務を自覚し、専門職として日々研鑽に努め、個々の指導力及び資質の向上を図るとともに、校内業務の適正化（特に、効率化）を推進することにより、教職員一人一人が心身ともに健康な状態で児童と向き合う時間を十分に確保し、活力ある学校づくりに努める。
- (5) 学校・家庭・地域社会との連携を密にして、地域の教育力を活用しながら、地域とともにある学校づくりと小中一貫教育の推進に努める。

【 陽西地域学校園教育ビジョン 】

自己の「よさ」を活かすとともに他者を尊重し、粘り強く頑張る子どもの育成  
～協働的な学びを通して、自己肯定感をはぐくむ教育活動の推進～

## 4 教育課程編成の方針

- (1) 心豊かでたくましく生きる児童を育成するために、国・県・市の基本方針、児童及び地域の実態を考慮した特色ある教育課程を編成する。
- (2) 児童一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実を図り、交流及び共同学習の推進を目指した教育課程を編成する。
- (3) 「地域とともにある学校づくり」を推進するために、地域の教育力を生かし、交流活動の充実を目指した教育課程を編成する。

## 5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- 【 学 校 運 営 】 ・児童一人一人のもつよさや可能性を認め伸ばし、未来を拓くたくましい人間力の育成
- 【 学 習 指 導 】 ・ともに学び合い、主体的に課題解決に取り組む児童の育成  
～ 1人1台端末を有効に活用した授業づくり ～
- 【 児 童 生 徒 指 導 】 ・学校生活の中で、共に学び自他を大切に、互いに認め合える児童の育成
- 【健康（体力・保健・食・安全）】 ・生涯にわたって心身ともに健康で安全な生活を送るための資質や能力の育成

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価															
				数値指標に対する肯定的評価の割合															
				上段 令和4年度 下段 令和3年度 色＝評価対象 青＝達成 橙＝未達成 斜線＝当該項目の評価なし															
目 指 す 児 童 の 姿	A1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。  <b>【数値指標】</b> 全体アンケート「児童は、授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる。」 ⇒教職員肯定的回答 90%以上	①「さくらの学び（つかむ・学び合う・まとめる・ふりかえる）」のサイクルの実践を通して、基礎・基本の定着を図り自ら学ぶ力を育てる。 ※学習がんばり週間の実施 ※地域学校園で作成した「家庭学習の手引き」の効果的活用 ※朝の学習を実施 ②少人数指導やT・Tで個に応じた指導に努める。 ③これまでの実践に加え、1人1台端末を活用した課題を積極的に提示していくようにする。	B	<b>【達成状況】 目標を達成</b> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R4</td> <td>100.0</td> <td>85.5</td> <td></td> <td>93.7</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>96.6</td> <td>92.5</td> <td></td> <td>94.5</td> </tr> </tbody> </table> 昨年度に引き続き、今年度も数値目標を達成した。また、昨年度より肯定的回答をしている割合が3.4%増加した。  <b>【次年度の方針】</b> 引き続き、つかむ・学び合う・まとめる・ふりかえるといった、「さくらの学び」サイクルの実践を通して、基礎・基本が確実に児童に身に付くようにする。  これまでの実践に加え、学年だよりやホームページで、児童の学習の様子や成果を発信していく。		教職員	保護者	地域	児童	R4	100.0	85.5		93.7	R3	96.6	92.5		94.5
		教職員	保護者	地域	児童														
	R4	100.0	85.5		93.7														
R3	96.6	92.5		94.5															
A2 児童は、思いやりの心をもっている。  <b>【数値指標】</b> 全体アンケート「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒教職員肯定的回答 90%以上	①道徳科の授業や交流活動、集団での活動を通して、自分を大切にする心、他人を思いやる心、他者との共生を図る心を育成する ②縦割り班を中心とした活動を取り入れ、自他を尊重する心を育てる。 ③「Q-U」を生かした学級経営を行う。 ④ほめほめカードの活用を通し、児童の自尊心を育てる。	B	<b>【達成状況】 目標を達成</b> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R4</td> <td>95.8</td> <td>95.8</td> <td>100.0</td> <td>92.3</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>96.6</td> <td>96.6</td> <td>100.0</td> <td>90.5</td> </tr> </tbody> </table> 昨年度よりわずかに数値は減ったが、数値目標を達成した。また、すべての対象においても、90パーセント以上の肯定的回答割合を達成した。  <b>【次年度の方針】</b> 思いやりを持って友達に接している児童が多い。現状を維持していく。		教職員	保護者	地域	児童	R4	95.8	95.8	100.0	92.3	R3	96.6	96.6	100.0	90.5	
	教職員	保護者	地域	児童															
R4	95.8	95.8	100.0	92.3															
R3	96.6	96.6	100.0	90.5															
A3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。  <b>【数値指標】</b> 全体アンケート「児童は、きまりやマナーを守って生活している」 ⇒教職員肯定的回答 90%以上	①適切な助言・賞賛・励ましによる基本的生活習慣の確立と徹底を図る。 ②「桜のよい子」に基づいた週（月ごと）の具体的な生活目標を設定し、基本的生活習慣を身に付けさせる。 「とくにがんばろう！3つのめあて」の定着を目指す。 特に、以下の3つのめあての定着を目指す。 ・友達同士は、「さん」をつけてよび合おう。 ・元気なあいさつで明るい学校にしよう。 ・廊下は静かに歩き、安全に生活しよう。 ③朝のあいさつ運動を学校全体で行うよう積極的参加するよう声掛けをする。	B	<b>【達成状況】 目標を達成</b> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R4</td> <td>100.0</td> <td>93.8</td> <td>100.0</td> <td>86.7</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>96.6</td> <td>92.2</td> <td>100.0</td> <td>87.2</td> </tr> </tbody> </table> 昨年度に引き続き、今年度も数値目標を達成した。登下校に帽子をかぶるなどきまりやマナーを守って生活する児童が多かった。  <b>【次年度の方針】</b> 今年度の取組を維持しながら、廊下歩行や名札をつけるなど細かいところでルールを守れない児童も見られる。指導の重点化を図り、ルールを守り、生活していくことのできるようになる。		教職員	保護者	地域	児童	R4	100.0	93.8	100.0	86.7	R3	96.6	92.2	100.0	87.2	
	教職員	保護者	地域	児童															
R4	100.0	93.8	100.0	86.7															
R3	96.6	92.2	100.0	87.2															

A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。

【数値指標】  
全体アンケート「児童は時と場に応じたあいさつをしている」  
⇒教職員・保護者肯定的回答 85%以上

- ①児童会縦割り班のあいさつ運動を定期的に展開し、和やかな人間関係・雰囲気を作る。
- ②あいさつ当番制度やあいさつカードの活用により、習慣化を図る。
- ③あいさつ運動を継続し、コロナ禍であるが活気ある学校の雰囲気をつくっていくとともに、学年に応じた挨拶の仕方について指導する。

B

【達成状況】目標を達成

	教職員	保護者	地域	児童
R4	95.8	87.4	90.0	97.4
R3	96.6	84.9	100.0	92.7

今年度は保護者・教職員共に、数値目標を達成した。  
個人差は見られるものの、気持ちのよいあいさつができる児童が増えている。

【次年度の方針】

児童会中心にあいさつ運動など今年度の取組を維持しながら、気持ちのよいあいさつができるように啓発していく。

A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。

【数値指標】  
全体アンケート「児童は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」  
⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上

- ①自尊感情を育み、個性を十分に発揮させるために、児童一人一人のよさを認め励ます教育の充実を図る。  
・褒めて伸ばす教育の推進  
・自己の成長を振り返る場の設定  
・児童相互に認め合う場の設定
- ②日々の生活の中で達成感や成就感を味わうことができるよう、個に応じたねらいや活動の設定を工夫する。  
・挑戦意欲を喚起する課題の設定  
・競い合い高め合う望ましい学級集団づくりの推進
- ③体育科の検定など、挑戦意欲を喚起する仕掛けを学校や学級で設け、達成感を味わわせるようにし、自尊感情を育む。

B

【達成状況】目標を達成

	教職員	保護者	地域	児童
R4	95.8	82.0		88.9
R3	96.6	78.5		89.7

昨年度に引き続き、今年度も数値目標を達成した。

【次年度の方針】

挑戦意欲を喚起する取組を学校や学級で設け、達成感を味わわせるようにし、自己肯定感を高める。

ほめほめ賞や友達のよさを伝え合う活動などにより、互いの個性を認め合う雰囲気作りに努める。

A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。

【数値指標】  
全体アンケート「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」  
⇒教職員・保護者の肯定的回答 85%以上

- ①災害や不審者を想定した避難訓練を実施し、児童自らが危険を予測し回避できる能力の育成を図る。体育の授業や休み時間などに児童が自ら進んで体を動かそうとする意識の育成を図る。
- ②安全な登下校や交通安全について発達の段階に応じ繰り返し指導する。感染症予防を目指して児童が自ら行動できるように指導する。
- ③校舎外の安全な生活(遊具の安全な使い方等)について、にこにこタイムや日々の指導や教科・学級活動の時間で継続して指導する。食育だよりや給食時の声掛けなどで、食の大切さを啓発していく。
- ④西生涯学習センターや桜コミセンと連携しながら危機管理マニュアルの見直しを図る。避難訓練を実施して児童の危機管理意識を高めるとともに、安全な登下校や交通安全についての指導を繰り返し行う。

B

【達成状況】目標を達成

	教職員	保護者	地域	児童
R4	100.0	95.3	100.0	94.1
R3	100.0	88.1	100.0	93.4

昨年度に引き続き、今年度も数値目標を達成した。また、昨年度よりも肯定的回答をしている保護者の割合が 7.2%と大幅に増加した。

【次年度の方針】

引き続き、安全な登下校や交通安全・校内安全について発達の段階に応じ、繰り返し指導する。

遊具の使い方など、安全な生活の仕方について、にこにこタイムや学級活動等の時間を活用して、継続的にしていく。

A7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるように努力している。

【数値指標】  
 全体アンケート「児童は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」  
 ⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上

- ①望ましい勤労観・職業観の形成を図るために「宮・未来キャリア教育」の充実を図る。  
 ・年間指導計画に基づいた意図的・計画的な指導の展開  
 ・キャリア形成に係る自己評価と記録蓄積の工夫
- ②地域各団体主催の行事等に関する情報を積極的に提供し、地域活動への児童の参加促進を図る。  
 ・各団体との連携の強化による地域行事情報の収集  
 ・ホームページ等を活用した情報の積極的な発信
- ③キャリアパスポートを活用し、以前の自分と比較させ、成長している点を実感できるような場の設定を図る。
- ④ほめほめ賞や清掃活動・縦割り班活動の評価のフィードバックにより、一人一人が自分のよさに気付けるようにする。

【達成状況】目標を達成

	教職員	保護者	地域	児童
R4	95.8	82.0		88.9
R3	96.6	78.5		89.7

昨年度に引き続き、今年度も数値目標を達成した。

【次年度の方針】

引き続き、キャリアパスポートを活用し、以前の自分と比較させて、成長している点を実感できるように支援していく。

ほめほめ賞や清掃活動、縦割り班活動の評価のフィードバックにより、一人一人が自分のよさに気付けるようにする。

A8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。

【数値指標】  
 全体アンケート「児童は、外国語活動の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」  
 ⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上

- ①英語によるやりとりを中心とした授業実践の推進  
 ・教材研究の工夫  
 ・ALTとの連携の工夫  
 ・学習形態の工夫
- ②外国語活動に向けた環境整備の推進  
 ・教材等、備品の管理の工夫  
 ・校内掲示の工夫
- ③児童が目的意識をもって英語で話したいと思えるような教材の工夫をする。
- ④これまでの実践に加え、1人1台端末を活用する。

【達成状況】目標を達成

	教職員	保護者	地域	児童
R4	91.7			87.5
R3	86.2			89.0

昨年度に引き続き、今年度も数値目標を達成した。

【次年度の方針】

児童が目的意識をもって英語で話したいと思えるような教材の工夫に努める。また、学年の実態に合わせた指導の工夫について、ALTとの確実な打ち合わせを継続していく。

今年度の実践を踏まえ、1人1台端末をより一層活用する場の設定をする。

A9 児童は、宇都宮の良さを知っている。

【数値指標】  
 全体アンケート  
 「児童、宇都宮の良さを知っている。」  
 ⇒児童・教職員の肯定的回答 80%以上

- ①児童が郷土宇都宮に対する理解を深められるよう、発達の段階に応じて郷土に関する学習を推進する。  
 ・主に社会科、総合的な学習の時間（宇都宮学）、道徳と関連付け、ICT機器を用いた調べ学習を充実させ、積極的に保護者に情報を発信する。  
 ・特別活動（学校行事等）における体験的な学習の場の設定
- ②校外学習等で、宇都宮の良さに触れる機会を設定する。

【達成状況】目標を達成

	教職員	保護者	地域	児童
R4	83.3	65.6		82.7
R3	75.9	69.9		81.3

今年度は、数値目標を達成した。また、児童・教職員ともに、昨年度よりも肯定的回答をしている割合が増加した。

【次年度の方針】

主に社会科、総合的な学習の時間（宇都宮学）、道徳科と関連付け、ICT機器を用いた調べ学習を充実させ、積極的に保護者に情報を発信する。

校外学習等で、宇都宮の良さに触れる機会を多く設定する。

A10 児童は、I C T機器や図書等を学習に活用している。

【数値指標】  
全体アンケート「児童は、I C T機器や図書等を学習に活用している。」  
⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上

- ①情報活用能力の育成を図るために、体系的な情報教育を推進する。
  - ・意図的・計画的な「情報モラル教育」の実践
  - ・授業におけるI C T機器の効果的な活用
  - ・プログラミング教育の実践
- ②図書資料を有効に活用した学びを充実させるために、学校図書館の整備を推進する。
  - ・学習・情報センターとしての図書館の利用指導の充実
  - ・学習ニーズの把握に基づいた関連図書情報の提供
  - ・市立図書館と連携した授業実践
- ③これまでの実践に加え、1人1台端末を活用した課題を積極的に提示し、学びの意欲喚起や家庭学習の定着等を目指す。

【達成状況】目標を達成

	教職員	保護者	地域	児童
R4	100.0	91.0		91.5
R3	100.0	81.8		87.9

昨年度に引き続き、数値目標を達成した。また、昨年度よりも肯定的回答をしている児童の割合が3.6%増加した。

【次年度の方針】

昨年度に引き続き一人一台端末を活用した学習の充実を図り、情報モラルやマナーの理解を促すために家庭に向けて、情報を発信していく。

A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。

【数値指標】  
全体アンケート「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」  
⇒児童・教職員の肯定的回答 90%以上

- ①高齢者へのいたわりの気持ちを育めるよう、手紙などを通して、学習したことや応援メッセージなどを送って交流する。
- ②総合的な学習の時間に、障がい者・高齢者について学ぶ時間を設け、共感的理解を図る。
- ③地域の高齢者への手紙のプレゼントやクリーン活動などを通して、地域との交流を図る。また、総合的な学習の時間（主に3学年）に障がい者・高齢者について学ぶ時間を設ける。

【達成状況】目標を達成

	教職員	保護者	地域	児童
R4	95.8	94.3	100.0	92.3
R3	96.6	92.6	100.0	90.5

昨年度に引き続き、数値目標を達成した。また、昨年度よりも肯定的回答をしている児童の割合が1.8%増加した。

【次年度の方針】

引き続き、地域の高齢者の方への手紙のプレゼントやクリーン活動を通して、地域との交流を図る。

総合的な学習の時間に、福祉について学ぶ時間を設ける。

A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。

【数値指標】  
全体アンケート「児童は、持続可能な社会について、関心をもっている。」  
⇒児童・教職員の肯定的回答 80%以上

- ①教職員が「持続可能な開発のための教育」(E S D)について理解を深め、児童の学習内容に関連付け、日々の生活の中で実施できるように指導を推進する。
- ②「持続可能な開発のための教育(E S D)」を推進するために、新たなカリキュラムの開発・研究に努める。
  - ・社会科、生活科、学活、総合的な学習の時間における活動の見直しを行う。
- ③児童の実態に応じた具体的な活動内容を検討する。

【達成状況】目標を達成

	教職員	保護者	地域	児童
R4	91.7			89.7
R3	65.5			88.6

今年度は、数値目標を達成した。また、昨年度よりも肯定的回答をしている教職員の割合が26.2%増加した。また、児童も1.1%増加した。日々の授業の中で、SDGsという言葉に興味関心をもって意欲的に学習していることが分かる。

【次年度の方針】

今年度同様、児童の学習内容に関連付け、日々の生活の中で「持続可能な開発」を実践できるように、E S Dを推進する。

目 指 す 学 校 の 姿	<p>A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>①児童一人一人の教育的ニーズを十分に把握して児童理解に努めるとともに、児童が安心して学校生活を送れるよう保護者との連携や組織を活用した指導の充実を図る。</p> <p>②教育相談や保護者との懇談を通じた児童理解の推進</p> <p>③校内支援委員会やケース会議を活用した組織的指導の充実</p> <p>④児童養護施設「きずな」との連携</p> <p>⑤困り感を抱えた児童が安心して学校生活を送れるよう、通常の学級と特別支援学級との連携や、かがやきルームにおける指導の充実を図る。</p>	<p>【達成状況】目標を達成</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R4</td> <td>100.0</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>100.0</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>昨年度同様達成状況が100%となっている。外国人児童への支援、特別な支援を必要とする児童への支援も十分に行われている。児童指支援連絡会も毎週行われている。</p> <p>【次年度の方針】 引き続き保護者や関係機関との連携を図っていき、児童が安心して学校生活を送れるよう、支援の充実を図る。</p>		教職員	保護者	地域	児童	R4	100.0				R3	100.0			
		教職員	保護者	地域	児童													
	R4	100.0																
	R3	100.0																
<p>A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「学校は、いじめ対策に熱心に取り組んでいる。」 ⇒児童・保護者の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①いじめゼロ強調月間や人権週間の取組を推進し人権を尊重する態度を育成する。また取組を公開する。</p> <p>②道徳の時間の指導の充実と実践及び公開</p> <p>③地域学校園との連携した取組。</p> <p>④いじめ防止アンケートや教育相談によるいじめの早期発見と解消。</p> <p>⑤いじめゼロ強調月間や人権週間等の取組や各学年でのいじめに対する取組をホームページや学年だよりで、保護者に分かるように積極的に発信する。</p>	<p>【達成状況】目標を達成</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R4</td> <td>100.0</td> <td>83.5</td> <td>100.0</td> <td>97.8</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>100.0</td> <td>83.1</td> <td>100.0</td> <td>98.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>児童において昨年同様数値目標を達成しているが、保護者の数値においてわずかに下回った。</p> <p>【次年度の方針】 現状を維持しながら、いじめゼロ集会以外の普段の取組を積極的に保護者へ情報公開するようにしていく。職員間でもいじめゼロの取組について共有していく。</p>		教職員	保護者	地域	児童	R4	100.0	83.5	100.0	97.8	R3	100.0	83.1	100.0	98.5	
	教職員	保護者	地域	児童														
R4	100.0	83.5	100.0	97.8														
R3	100.0	83.1	100.0	98.5														
<p>A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「先生方は、不登校を生まないよう、一人一人の児童を大切に、児童がともに認め励まし合う学級経営を行っている。」 ⇒児童・保護者の肯定的回答 90%以上</p>	<p>①学年・学級経営計画に基づいた意図的・計画的な指導を通して、学級活動の充実を図り、明るく活力に満ちた学級風土づくりを推進する。 ・教育相談・Q-U検査の効果的な活用 ・教師と児童の協働・共遊の推進</p> <p>②児童がともに認め励まし合う学級づくりを行っていく。また、教職員間での情報共有を行い、組織的・計画的支援に努める。</p> <p>③欠席状況共有シートや日々の様子の記録等を活用した情報共有を推進し、共通理解に基づいた組織的計画的な支援を推進する。 ・欠席状況共有シートや日々の様子の記録等を活用した情報共有 ・別室登校支援等、児童の実態に応じた支援策の工夫</p>	<p>【達成状況】目標を達成</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R4</td> <td>100.0</td> <td>92.0</td> <td></td> <td>95.9</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>100.0</td> <td>92.4</td> <td></td> <td>98.2</td> </tr> </tbody> </table> <p>昨年度に引き続き、今年度も数値目標を達成した。欠席している児童への連絡やほめほめカードなどの目に見える形で良いところを認める取組等の成果である。</p> <p>【次年度の方針】 欠席している児童への連絡やほめほめカードなどの取組を継続しながら、児童に自信を持たせるような学級経営を行っていく。</p>		教職員	保護者	地域	児童	R4	100.0	92.0		95.9	R3	100.0	92.4		98.2	
	教職員	保護者	地域	児童														
R4	100.0	92.0		95.9														
R3	100.0	92.4		98.2														
<p>A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>①充実した学校生活を送れるよう、実態把握に基づいた支援計画を作成し、適切な指導・支援を推進する。 ・保護者面談による情報の収集 ・校内での共通理解の推進</p> <p>②効果的な支援に向け、SCや日本語指導講師との積極的な連携を図る。 ・支援情報の共有 ・適切な教材の準備</p>	<p>【達成状況】目標を達成</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R4</td> <td>100.0</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>100.0</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>昨年度同様、教職員の達成状況は100%である。日常的に実態把握をしっかりと行い、支援を必要としている児童や家庭に対して適切な支援ができています。</p> <p>【次年度の方針】 次年度も継続して実態を把握しながら、適切な支援を行っていく。</p>		教職員	保護者	地域	児童	R4	100.0				R3	100.0				
	教職員	保護者	地域	児童														
R4	100.0																	
R3	100.0																	

A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。

【数値指標】  
全体アンケート「私は、今の学校が好きです。」  
⇒児童・保護者の肯定的回答 90%以上

A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。

【数値指標】  
全体アンケート「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」  
⇒児童の肯定的回答 90%以上

A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。

【数値指標】  
全体アンケート「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」  
⇒教職員の肯定的回答 90%以上

A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。

【数値指標】  
全体アンケート「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」  
⇒教職員の肯定的回答 85%以上

- ①「認め、励まし、支え合う」学年学級経営の充実に取り組む。
- ②全職員が共通理解・連携のもと児童指導にあたり、自己存在感のある学校づくりに取り組む。
- ③授業や学校行事で、児童が主体的に活動できる場を意図的に設定し、達成感をもたせ、意欲的に行動できるようにする。

- ①特別支援学級との連携を図る。
- ②「さくらの学び」（ねらい、見通し、学びあい、振り返り）を活用した学びのスタイルの確立と活用に努める。
- ③学力テストやアンケート結果の分析と効果的な活用を行う。
- ④少人数指導を通してのきめ細やかな指導に努める。
- ⑤ホームページや学年便りなどで、授業の様子を載せて保護者へ積極的に発信をする。

- ①専門スタッフを効果的に活用するために、学校内外のコミュニケーション環境の「チーム桜」を意識した活動を継続することに努める。  
・総合的な連絡調整の実施  
・各業務担当教職員との綿密な打ち合わせの実施  
・各スタッフによる関係職員への積極的な情報提供の推進
- ②職員会議や打ち合せの機会を活用し、専門スタッフとの情報交換を密にする。

- ①勤務時間や業務内容の違いを相互に理解しながら協働体制を構築する。
- ②学校スタッフの業務内容を整理したり、行事や文書処理などにおいて具体的な業務の削減をしたりする。
- ③多様な専門性を有する学校スタッフと連携し、効率的・効果的な教育活動の推進を図る。
- ④職員自らがライフワークバランスを意識して勤務することができるよう、互いに声を掛け合う。
- ⑤リフレッシュデーの持ち方や方法について検討する。

【達成状況】目標を達成

	教職員	保護者	地域	児童
R4	100.0	94.2	100.0	90.8
R3	100.0	92.2	100.0	91.6

昨年度に引き続き、今年度も数値目標を達成した。また、すべての対象においても、90パーセント以上の肯定的回答割合を達成した。

【次年度の方針】

引き続き、学年学級経営や児童指導の充実に努めるとともに、特別活動などで児童が主体的に活動する機会を多く設け、達成感や自己有用感を味わえるように教育活動を推進していく。

【達成状況】目標を達成

	教職員	保護者	地域	児童
R4	100.0	89.9		97.8
R3	96.6	87.4		97.8

昨年度に引き続き今年度も、数値目標を達成した。

【次年度の方針】

引き続き、ホームページや学年便りなどに授業の様子を掲載し、保護者に向けて積極的に学力向上のための取組を発信する。

【達成状況】目標を達成

	教職員	保護者	地域	児童
R4	95.8			
R3	96.6			

昨年度に引き続き、今年度も数値目標を達成した。校務分掌の適切な配置や、校内での連携強化により、「チーム桜」を意識して教育活動に取り組むことができています。

【次年度の方針】

引き続き、学校内外のコミュニケーション環境の向上・「チーム桜」を意識した活動を継続し、次年度着任するメンバーにも波及するように心掛け、肯定回答率が100パーセントになることを目指していく。

【達成状況】目標を達成

	教職員	保護者	地域	児童
R4	95.8			
R3	93.1			

昨年度に引き続き、今年度も数値目標を達成した。また、昨年度より肯定的回答をしている教職員の割合が2.7%増加した。

【次年度の方針】

引き続き、行事の精選や、文書処理の簡便化・ペーパーレス化など具体的な業務の効率化に取り組んでいく。

A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。

【数値指標】

全体アンケート「学校は、小学生や中学生が交流する活動を行っている。」  
⇒児童・保護者の肯定的回答 80%以上

- ① 保護者や地域住民に対して「各種たより」やホームページで、教育活動の情報を発信・提供する。
- ② 6学年の学年だよりでは、乗り入れ授業の様子や児童の感想などを載せ、保護者への啓発を図る。
- ③ 小中合同のあいさつ運動や中学校訪問の機会を通して、児童生徒相互の交流を推進する。
- ④ 食育だよりや図書館だよりなど、地域学校園で行っている取り組みについて、より保護者に理解が得られるよう、紙面の構成を工夫する。

【達成状況】 **目標を未達成**

	教職員	保護者	地域	児童
R4	95.8	72.2	100.0	87.6
R3	100.0	77.7	100.0	84.5

児童の数値目標を達成したが、保護者の数値目標がわずかに下回った。感染症対策のため、取組が減少したり、時期を延期したりしたこと・取組について十分に周知できていなかったことが要因と考えられる。

【次年度の方針】

今まで以上に小中一貫の教育活動について積極的に情報提供し、保護者や地域の理解を深める。

地域学校園内の学校との連携を強くし、取組の実施時期や、その方法について検討していく。

【達成状況】 **目標を達成**

	教職員	保護者	地域	児童
R4	95.8	85.5	100.0	91.1
R3	100.0	83.7	100.0	88.3

感染症対策を講じた上で、PTA 親子レクリエーションや読み聞かせ等の活動を工夫して実施することができた。地域の教育力を活用する取組を行ってきた成果が数値目標の達成につながったと考える。

【次年度の方針】

引き続き、感染症対策を講じた上で、可能な取組を行っていく。

学校での教育活動について情報公開を推し進め、保護者や地域社会の方々に理解してもらえるように努めていく。

A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。

【数値指標】

全体アンケート「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し、楽しい。」  
⇒児童・保護者の肯定的回答 85%以上

- ① 家庭と連携・協力して規則正しい生活習慣を身に付けるための「生活チェック」を行う。
- ③ 児童の健康安全を第一に考え、地域の感染症警戒状況に照らして、オンラインを活用して外部人材と連携を図り教育活動を推進していく。

【達成状況】 **目標を達成**

	教職員	保護者	地域	児童
R4	95.8	85.5	100.0	91.1
R3	100.0	83.7	100.0	88.3

昨年度に引き続き、今年度も数値目標を達成した。企業や博物館による出前授業など、可能な取組を実施してきた結果、児童の肯定的回答割合が90パーセントを上回った。

【次年度の方針】

引き続き、感染症対策を講じた上で、可能な方法を探りながら、外部機関と連携した教育活動を行っていく。

A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。

【数値指標】

全体アンケート「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し、楽しい。」  
⇒児童の肯定的回答 85%以上

- ① 学校の公開や情報の積極的な発信・提供を行い、家庭・地域・企業等との連携・協力を推進する。
  - ・ オープンスクール等による学校公開の推進
  - ・ 学校便り、学年便り、保健便り、食育便り、図書館便り等の工夫と定期的発行
- ② 地域団体・地域人材の積極的な活用を通して、地域と共に歩む魅力ある学校づくりを推進する。
  - ・ 生活科や総合的な学習の時間における体験活動を中心とした交流活動の推進
  - ・ 新たな地域教材開発の推進
- ③ 外部連携を例年通り計画し、社会状況に応じて臨機応変に実施・変更を行う。

<p>A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 ⇒保護者・地域住民の肯定的回答 90%以上</p>	<p>①児童と教師の協働による日常の清掃活動等を充実させ、環境の美化に努める。 ・縦割り班清掃活動の充実と清掃強化週間の有効活用 ・児童会活動や奉仕活動の充実 ・地域協議会と連携した緑化活動の推進</p> <p>②安全点検結果に基づく、修繕補修を迅速に行い、安全な学習環境づくりを推進する。 ※コロナ禍での対応の継続 (検温・消毒作業・施設利用法・換気・3密の回避))</p>	<p>【達成状況】目標を達成</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R4</td> <td>100.0</td> <td>93.8</td> <td>100.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>100.0</td> <td>91.8</td> <td>100.0</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>昨年度に引き続き、今年度も数値目標を達成した。昨年度よりも「肯定的回答をしている保護者の割合が2.0%増加した。</p> <p>【次年度の方針】 引き続き、清掃・安全点検の確実な実施、地域と連携した緑化活動の推進を図るとともに、コロナ禍における様々な対応も継続しながら、安全な学習環境を構築していく。</p>		教職員	保護者	地域	児童	R4	100.0	93.8	100.0		R3	100.0	91.8	100.0	
	教職員	保護者	地域	児童													
R4	100.0	93.8	100.0														
R3	100.0	91.8	100.0														
<p>A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①情報教育を推進するために、ICT機器の利用環境整備に努める。 ・1人1台端末の活用 ・ICT機器の集中管理の徹底</p> <p>②図書資料を有効に活用した学びを充実させるために、学校図書館の整備を推進する。 ・教育課程に即した図書選定の実践</p> <p>③市立図書館と連携した希望図書の有効活用</p>	<p>【達成状況】目標を達成</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R4</td> <td>100.0</td> <td>91.0</td> <td></td> <td>91.5</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>100.0</td> <td>81.8</td> <td></td> <td>87.9</td> </tr> </tbody> </table> <p>昨年度に引き続き、今年度も数値目標を達成した。また、昨年度よりも肯定的回答をしている保護者の割合が9.3%と大幅に増加した。</p> <p>【次年度の方針】 ICT機器の効果的な活用を図り、学校全体で情報教育を推進していく。</p>		教職員	保護者	地域	児童	R4	100.0	91.0		91.5	R3	100.0	81.8		87.9
	教職員	保護者	地域	児童													
R4	100.0	91.0		91.5													
R3	100.0	81.8		87.9													
<p>B1 児童は、互いの良さを認め、協力し合って生活している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「児童は、互いの良さを認め、協力し合って生活している。」 ⇒児童肯定的回答 90%以上</p> <p>本校の特色・課題等</p>	<p>①共に支えあう望ましい学級集団づくりを目指す活動を継続していく。 ・縦割り班活動(清掃・共遊・さくらウォークラリー等)の充実 ・特別支援学級と通常の学級との交流 ・異学年交流(クラブ活動、委員会)</p> <p>②自他の違いを理解し、尊重し合い支えあう望ましい学級集団づくりを目指す活動の場を設定する。 ・よさを見つけ認め合う活動「ほめほめカード」「さくらカード」 ・一人一人の良さを認め合えるような学年・学級経営</p>	<p>【達成状況】目標を達成</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R4</td> <td>100.0</td> <td>92.5</td> <td>100.0</td> <td>93.4</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>100.0</td> <td>91.4</td> <td>100.0</td> <td>95.2</td> </tr> </tbody> </table> <p>昨年度に引き続き、今年度も数値目標を達成した。また、すべての対象においても、90パーセント以上の肯定的回答割合を達成した。</p> <p>【次年度の方針】 引き続き、「ほめほめカード」「さくらカード」の取組を推進するとともに、縦割り班活動での異学年交流を進め、互いに認め合う雰囲気醸成に努める。</p> <p>共に生きる力を育てる交流活動や各学級で互いのよいところを認め合う活動を取り入れる等、「共に認め合い励まし合える望ましい学級集団」を目指す活動を継続していく。</p>		教職員	保護者	地域	児童	R4	100.0	92.5	100.0	93.4	R3	100.0	91.4	100.0	95.2
	教職員	保護者	地域	児童													
R4	100.0	92.5	100.0	93.4													
R3	100.0	91.4	100.0	95.2													

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

(学校運営)

・「児童と向き合う時間の確保と、活力ある学校づくり」を目指して、校務分掌の適切な配置と、学校行事・業務の効率化に努めたことにより、児童と向き合う時間を確保することができてきた。また、縦割り班での活動「ほめほめカード」を積極的に導入したことにより、児童が互いに認め合い、活力ある学校づくりにつながった。

・「学校・家庭・地域社会との連携、地域とともにある学校」として、感染症対策を講じ、保護者の学校行事への参加や・地域の教育力の活用を進め、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開できた。学校の教育活動については、より積極的に情報提供し、保護者や地域社会の理解を深めることが必要である。

(学習指導部会)

・教科の特性や児童の理解の程度に応じた学習形態や指導法の工夫に努めるとともに、基礎的・基本的な学力の確実な定着を図ってきた。また、個に応じた支援、指導、評価を行い、児童の学力向上に努めてきた。

○学習がんばり週間の設定や1人1台端末を活用した学習指導の研究により、授業中や家庭学習における児童の学習意欲や習慣が望ましい方向に変容し、学力の定着・向上に効果を上げた。

・「つかむ、学び合う、まとめる、ふりかえる」の「さくらの学び」を基に、児童が意欲をもって取り組める学習課題を設定し、試したり、考えを表したり、思いを伝えあったりするように学習活動や学習形態を工夫し、学びを深めることができるような授業実践に努めてきた。

#### （児童指導部会）

・きまりやマナーを守って学校生活を送ることや気持ちの良い挨拶をすることが定着してきた。児童主体のあいさつ運動を実施したり、職員が率先して挨拶を行ったりするなど、日頃の声掛けが成果につながったと考えられる。

・特別な支援や配慮を要する児童について、全教職員で共通理解し連携を取りながら、個に応じた支援に努めてきた成果が表れている。今後も週1回打合わせ後の児童指導対策会議での共有・連携を行い、個に応じた支援・対応を行うと共に、特別支援教育の視点を重視していきたい。

#### （健康安全部会）

・「引き渡し訓練」では、保護者と共に訓練を実施し、緊急時の引き渡しマニュアルについて確認することができた。また地震・火災を想定した避難訓練では、消防署の方を招いて訓練を実施することができた。その他の訓練についても、ICT等を活用し、実際場面を想定しながら実施することができた。

・児童は健康に留意しながら、運動集会や元気アップ週間を通して運動に進んで親しむことができた。

・食育や健康教育については、栄養士や養護教諭を中心にICT機器を取り入れながら効果的に実施することができた。

## 7 学校関係者評価

・コロナ禍前に比べると、様子が見えないところがある。しかし、今年度は「児童や保護者」の肯定的回答割合が高くなってきているので、来年度も引き続き「開かれた学校」をお願いしたい。

・校内では自分から挨拶が出来ているが、子どもを取り巻く事件を考えると校外の挨拶は難しい。また、地域においても「あいさつ標語」を募集して、地域の大人も挨拶し合えるように啓発していきたい。

・「小中一貫」「地域学校園」等、分かりにくい質問において、取組の説明や実践の発信をすると良いのではないかと。

・自己肯定感を高める指導を引き続きお願いしたい。

・子どもたちは元気に過ごしているので、これからも地域と学校との連携を図っていきたい。

## 8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

・地域と家庭、学校が連携を図りながら、学校教育への理解を深めていただき学校運営の充実に努める。

①今後も授業参観等の公開や各種便り、ホームページ等による情報発信を行う。

②「さくら地区クリーン活動」等地域の教育力を生かした交流活動を取り入れ、特色ある教育活動の実践を行う。

③地域協議会の組織を活用し、地域の人材を積極的に教育活動に取り込み、地域の教育力を生かした学校づくりを推進する。

・校内でのあいさつ運動の習慣化と地域の方々との交流の充実に努める。

①気持ちの良い挨拶を職員自ら率先励行する姿勢をもち児童の見本となるようにする。

②児童会を中心にあいさつ運動を行う等、今年度の取組を継続しながら、「桜のよい子」「ほめほめカード」等を活用し、基本的生活習の定着を図るとともに、気持ちのよい挨拶をした児童を称賛し、進んで挨拶のできる児童を育てていく。

③社会科・生活科・総合的な学習の時間等の学習や児童会主催「感謝の会」等での交流活動を通して、自分が地域の一員であることや地域の方々を支えていただいていることを実感できるようにする。

④桜地域まちづくり協議会との連携を図り、学校と地域で挨拶の輪を広げるようにする。

○「小中一貫」「地域学校園」等の実践を積極的に情報発信するように努める。

①地域学校園の小中が連携して行っている「あいさつ運動」や教育活動の取組・実践を学校だよりや学年だより、HP等で発信する。

②今後も地域学校園で連携を図ったり、全職員で「小中9年間の学びを支える」という意識を共有したりしながら、児童を育成していく。

・児童の自己肯定感や自己有用感が高まる学習指導や児童指導、教育活動の充実に努める。

①基礎・基本の確実な定着及び「分かる授業」の展開を図りながら、一人一人の個性や能力を伸ばしていく。

②「つかむ、学び合う、まとめる、ふりかえる」の「さくらの学び」を基に、児童が意欲をもって取り組める授業を展開する。

③児童がもっている力を発揮できるように、一人一人に寄り添いながら温かくきめ細かな指導を行う。また、できた喜びを実感できるよう称賛の言葉を掛けたり、児童とともに達成感や成就感を共有したりし、児童のよりよい成長を支える関りに努める。

④特別活動を通して、「学校行事」「児童会活動」「学級活動」等、児童一人一人が活躍できる場を設定する。また、「縦割り班活動」等異学年による交流活動の場を多くして、自己肯定感や自己有用感を高めるようにする。